

ウラジオストク旅行 (2019.6.20)

ウラジオストクは昨年につき 2 回目の旅行である。昨年の旅行記の内容と重なる部分は極力省略し、新たな訪問地や感動を中心にまとめた。

今回も (社) 湘南ロシア倶楽部専務理事である菅原さんが企画主催したもので、DF、ダイヤモンド・ダイニング、横浜市の同好会の 9 人が参加した。目的は日ロ産業協力の推進で、港湾、不動産建設、カジノ、大学に関する日ロ協力について情報交換することだった。菅原さんは元商社マンで日ロ貿易に 40 年関わっている。

成田空港から 2 時間で到着した (注①)。またルーブルレートは 1.7/P (注②)



1、 2019 年 6 月 20 日(木)

成田発 15:40 発シベリア航空便 (S7) でウラジオストクには 19:00 着 (時差+1 時間)。

空港内にある ATM からデビットカードで出金した。クレジットカードは昨年同様不可だった。



しかしホテルにある ATM ではクレジットカードでも出金できた。因みにデビットカードでの交換レートは 1.76/P なので約 3% の手数料だ。日本円紙幣での両替レート 2.1/P なので手数料 25% だ。クレジットカードは 1 か月後に口座引き落としなのでデビットカードより少し手数料が高い。最悪なのはキャッシュ両替でこの 10 数年海外旅行では全くしていない。

宿泊は Hotel PRIMORYE (写真参照) で昨年と同じである。21 時頃到着した。日本語で「沿海州ホテル」という意味だ。

夕食はホテル内のレストランでとった。ロシア料理といえばピロシキやスープなどが有名だが、本場の味は格別で美味かった。

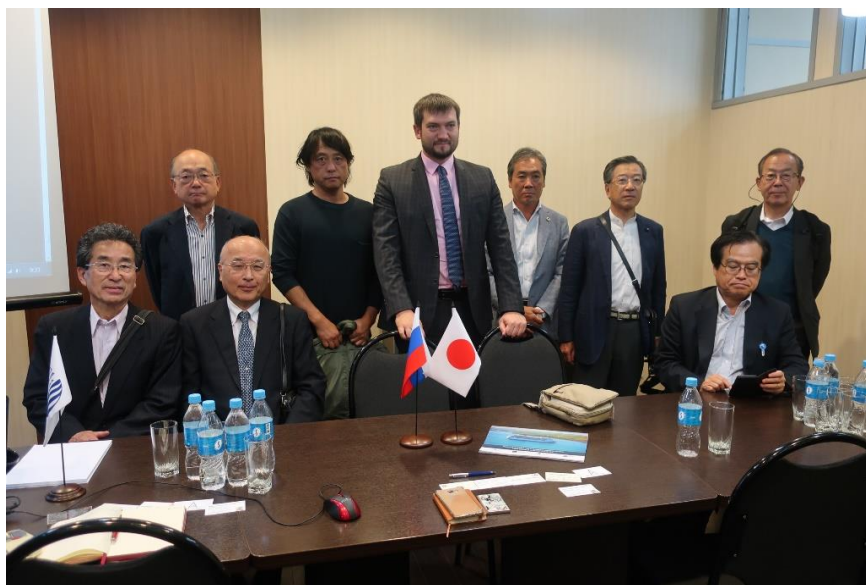
ホテルは日本のビジネスホテル並みの広さでバスタイレ付だ。TV は 100 チャンネル程あり海外映画やドラマも見えるが全てロシア語だ。また

Wifi サービスは昨年から向上していて Google.FB.Line など通信に問題なかった。

2、 21日(土) 市内視察

8時 ウラジオストック港湾会社 (Vladivostok Sea-Passenger Terminal)
Valeryi NAGORNYI(CEO)他と対応し会議室で60分程会談した。(写真参照)

会談目的は横浜港とウラジオストックのクルーズビジネスについての情報交換だ。現在ウラジオストック港には世界中のクルーズ船が来ている。貿易港と軍港の歴史が長いが、観光を目的とした商業ビジネスはこれからだ。この港をハブとしてナホトカ、サハリン、カムチャッカへのクルージングも可能だ。その航路の中に北方4島入れる可能性もあるとのことだった。



10時 ウラジオストック日本センター

向井所長(元丸紅)からウラジオストックを含めたロシア沿海地方の経済概況について詳細な説明を受けた。現在在留邦人140名で最盛期は6000人いたそう



だ。尚プーチン政権は、経済特区(ウラジオストック自由港)として沿海州の経済発展の核心にしたい意向がある。

昨年より日本からの観光客は着実に増加し、HISなど大手観光会社が参画している。街中で日本人観光客を見る機会も増えた。対日感情も非常に良く、治安も良いので日本からの旅行客が増加するだろう。北海道への旅行客がウラジオストックに相当シフトすることになるだろう。

12時 SUMOTORI (スモートリ)

同社社長 Verkeenko 氏は 2017 年 12 月にウラジオストク市長に任命されたが、2018 年 10 月に退任し再び CEO に復帰した。当日は名古屋出張で不在とのことで、弟の Sergey Verkeenko (COO) が会社概要と最近の事業内容について説明頂いた。ビジネスランチで頂いたロシア料理も大変美味だった。

同社は中古車の輸入事業で財をなし、現在はマツダ、スズキ、トヨタ、VW など外車の輸入販売が本業である。しかし最近では中古車の部品修理、レーシングサーキット場、遊園地、住宅開発などの不動産開発にも進出している。社屋入口にある金属製のオブジェは印象深い (写真参照)。社名が日本の国技に似ているのでユーモアであろう。



15時 カジノ (Casino)

ロシアにカジノは幾つかあるそうだが、ウラジオストク郊外 50 km (空港から 10 km) に 2015 年秋開業したカジノを視察した。2012 年頃に計画があり 3 年で完成したようだ。やはり 2012 年の A P E C に合わせた国家事業の一環であろう。広大な敷地で東京ドーム程の敷地に東京体育館程の施設があった (写真参照)。内部は撮影不可だった。

運営は香港証券市場上場の Summit Ascent Holdings の子会社 Tiger de Cristal だ。Stylianos Tsifetakis 氏がでギリシャ人だった。流暢な英語で経営状況と開発までの経緯など説明あった。印象的だったのは 1100 人の雇用が創出され、計画以上の業績を上げていることだ。アジア最大のカジノ基地であるマカオのノウハウが活かされているようだ。

お客は圧倒的に中国人だ。1 階メインロビーはスロットが中心だった。正面にはアーティストや芸能人のショーが開催されるステージがあった。そして地下にはVIP用の施設があった。なお参加者がカジノ内部で両替したが、レートはなんと 1.7/P であった。日本も IR 法案が可決しており、参考になった。



19 時 SACIVI(グルジア料理店)

ここは昨年も行ったグルジア料理店。結婚披露宴をしている家族もいた。3 階立てで総席数は 200 以上でほぼ満席だった。新鮮な野菜と肉料理とチャチャというアルコール飲料(45 度以上)が絶妙に調和して極めて美味かった。(次項 写真参照)

昨年来店した時に比べ明らかに繁盛していた。ウラジオストク駅から徒歩 5 分の好立地で、人気スポットになったようだ。ロシアの強い酒とあう料理だった。

3、 22日(土)

9時 ウラジオ
ストック駅舎

シベリア鉄道発着駅で歴史遺産だ。駅舎の壁や天井に写真や絵画があり、1時間ほど視察した。今回列車が往来するホームの中も散策した。100年前の蒸気機関車が展示されていた(写真参照)。



この駅から9000km離れたモスクワまで14日かかる。駅前広場にはレーニン像があった(注③)。また空港にアクセスする列車も運航していた。



11時 極東連邦大学 (Far East Federal University)
大学教授の Tagir D. KHUZIYATOV 氏の計らいで学内を案内して頂いた後、極東ロシアと日本の中小企業の経済協力について講義を受けた。

大学は市内中心部と20km離れたルイスキー島にあり、高速道路で繋がっている。

モスクワ大学とサンクトペテルブルグ大学に次ぐ名門

大学で、学生2万人職員3千人の総合大学だ。医学部や理工学部も充実しており、外国人留学生も多い。(注④)

この大学内で今年プーチンと金正恩の会談があった。また安倍総理はこの大学で講演されたそうだ。島の中にあるので要人警護に適しているようだ。(写真参照) 広大な敷地でスーパー、学生寮など生活環境は充実している。



13時半 ウラジオストク水族館

2016年9月開業した巨大水族館だ。地球誕生からの生命の起源や、恐竜の展示などもありなかなか面白かった。当日は天気も良く多くの家族連れが来ていた。生きた海洋生物とCGによる画像演出も素晴らしかった。(写真参照)



19時 レストラン Gus Caras (ロシア料理)

このレストランは典型的ロシア料理店で家族連れも多かった。特色はウオッカでワイワイ騒ぐような場所だ。お店のサーバーの女性陣も美しく英語も通じた。(写真参照)。

我々も明日で帰国なので一言ずつ喋ってウオッカの一气呑みを楽しんだ。参加者各位の一言が新鮮で良かった。「長生き万歳」、「健康大事」、「ウラジオストク最高」「ウオッカ最高」などなど。



23時 日本料理 「炎」

この店は最近出来たばかりだが、安倍総理やプーチン大統領も食事したとのことだ。日本料理屋はここを含めて3店舗しかない。(写真参照) ウニといくらとトロの寿司が絶品だった。ビール込みで2000Pとお値打ちだ。

4、 23日(日) 帰国

午前中ウラジオストック市とアルチョム市内の青空市場や大型ショッピングモールで地元食品・雑貨など土産品を見学した。空港内でサケ、カニ、鰻の冷凍食品を買った。

出国手続きに1時間以上かかった。搭乗客が増加したことと入国手続きに問題あった。航空会社のチェックインは通常だが、パスポートコントロール前に更に手荷物チェックがあり余分な時間を掛けているように思えた。

この空港はシンガポールのチャンギ空港が運営しており今後改善を期待したい。



5、 雑感

- (ア) 旅行中警察官を殆ど見なかった。水族館の入口で2人の女性の武装警察官がいた。それ以外では見なかった。巨大スーパー、地下鉄、空港入口には、東南アジアの都市では武装警官か民間警備員がいるのが通常だ。ウラジオストックの治安の良さの証かもしれない。
- (イ) 高速道路と一般道路にゴミがない。ペンキで落書きや汚された壁も見かけなかった。市内がこれほど清潔な外国都市は珍しい。また野鳥も殆ど見かけなかった。
- (ウ) 女性の化粧が濃厚かもしれない。日本センター所長によればモスクワから来たロシア人にウラジオストックの女性の化粧はケバイとのことだ。足は長く顔は小さく美人顔の女性が多いのは確かだ。30年前は肥満体格の女性が多かったが、今は少ない。
- (エ) ウクライナ地方からの移住者が多いそうだ。2018年の沿海州人口は819万人でウラジオストック市の人口は60万人。また2018年外国人訪問者数は78万人(中国42万、韓国22万、日本2万人)
- (オ) ネット通信はグーグルが機能する。WiFiルーター携帯すると市内どこでも繋がる。また最近流行の「自動翻訳機」も十分機能する。

(カ) 市内を走る自動車は90%が日本製中古車(右ハンドル)。バス・トラックは韓国製の中古車が殆どだ。

(注) の解説

- ① ウラジオストク日本センターの資料では、東京(週) 12便、大阪2便、札幌3便とある。
- ② ルーブル対円レートは、4年前3/P、10年前は4.5/Pだった。ウクライナ戦争を機に現在ロシアは欧米諸国から経済制裁を受けておりルーブルは下落している。因みに昨年は1.8/Pだ。
- ③ 1917年社会主義革命によりロシア王朝が崩壊し、ソビエト連邦(ソ連)が成立した。レーニンは社会主義革命の英雄(写真参照)だが、ウラジオストクを訪問したことは無かった。1991年にソ連が崩壊しロシアになった。それまでウラジオストクは軍港で閉鎖都市だった。観光化はここ10年の出来事だ。APECサミットが2012年開催された。
- ④ 東方経済フォーラムは、2015年9月から日ロ首脳参加して毎年開催されている。2016年の第2回フォーラムで安倍総理から「ウラジオストクを快適・清潔で住みやすく、活動しやすい都市づくり」のモデル都市とすることが提案された。



昨年のウラジオストク旅行記は「西村康裕事務所」で検索してHPを参照下さい。

(2019.6 西村康裕 記す)